

元・気・に・な・る・情・報・誌
よみっこ

4

Vol. 100
APRIL 2010
200 yen

月刊

Yomi

NARA + SOUTH KYOTO + IGA

心うきうき

花見ごろ。

春たけなわの

春ごはん



桜だより2010

今年、どこの桜を愛でる？

ご愛読の感謝の気持ちをこめて...
yomitto 100号記念
スペシャルプレゼント



育った村の山や川が好き。人が好き。
だから村の人口増やしたい！

かんのがわHBP 事務局長 岡田亥早夫さん(26)



ゲージジ家のMAMAさんも手伝いに来てくれた雪田中の棚田

自然と暮らす

Vol.27

「いつまでもこの村で楽しく過ごしたいんです」と、一昨年夏、大阪から過疎化・高齢化が進む十津川村神納川地区にUターンした若者がいる。岡田亥早夫さんだ。

同地区は、世界遺産「熊野参詣道・小辺路」(高野山・熊野本宮)の中間地点、標高300m余りの山あいの5集落からなる。全土の96%が山林という日本一大きな村の、中道から更に枝道に入ること15分、40世帯110人という村人のうち、20代は亥早夫さんの妹二人を含む5人しかいない。

「このままではここがどんどん寂しくなる」と、亥早夫さんの実家の民宿を含む有志10軒で「神納川農山村交流体験協議会」を設立。20年夏、「子ども農山漁村交流プロジェクト」として小学生の受け入れを試みた。

大学の時から村を出ていた亥早夫さんも、実家の手伝いに帰り、川遊びや木工体験、農作業や食事作りなど、50人の子どもたちと一緒に過ごした。子どもや引率教師はもちろん、村の人々も人との温かい触れ合いに感動した。3泊4日後、村人たちは涙して見送り、「私ら80歳近くになってこんな楽しい経験できるとは思わなかったよ」と、その村の人たちの声にも背中を押され、



廃校となった五百瀬小学校には思い出がいっぱい



世界遺産熊野参詣道(小辺路)



高家民宿先のご夫妻と泊まりの打ち合わせ



実家の民宿「岡田」で父の喜久男さん、妹の士代さんと



神納川と船道橋

丸太切りに挑戦中

小辺路の案内の様子



子ども農山漁村交流プロジェクト

子ども農山漁村交流プロジェクトを経験した子どもたちの多くが、その後積極的になったり、クラスにまともなものができたりとうれしい礼状が届く。学校行事への村人招待や家族でのリピートも



3/5オープン「ina-café」(かんのがわHBP)



肉厚のしいたけはアワビのような歯応え

村に帰ろうと心に決める。帰ってからは精力的に動いた。人手が無くて荒廃が進む田畑の整備や、しいたけ、蜂蜜、わさびなど特産品の開発、ツアーの企画・広報、宿泊客の割り振りなどの業務に加え、実家のしいたけ棚の世話や地元での土木職と、何足ものわらじを履き替える多忙な毎日。
「多くの方に支えてもらいながら、1年が過ぎました。5年後では手遅れになるかもしれません。今60代、70代のお年寄りにいろいろ教えてもらわんと」、生活の知恵や伝統であったり、その生き方であったり、学ぶことは多い。仕事さえあれば帰ってきたいと言うような友達のために、事業を盛り上げ、この地区でできることの可能性を探る。
昨年1年は、都市部からの流入ルートを確認するモニターツアーの実施や特産品の開発、集落の景観保全のための棚田の復旧も試みた。「この景色、いいでしょう？ ここには、二つの宝物があります。一つは『美しい日本の原風景』、そして『あつたかい日本の心』です」。この宝物と都会の人々を結び、交流人口を増加させ、持続可能な仕組み作りに向けた取り組み、それが「かんのがわHBP (Happy Bridge Project)」で、協議会の愛称とした。
今後、同プロジェクトでは、四季折々の体験やツアーの企画を進めており、5月には、子ども向け「神納川あつたか田舎体験記」と、大人対象の地域貢献型ツアー「耕作放棄地の復旧作業」を実施。ほんまもんの自然の中で過ごす楽しいイベントの準備に奔走中だ。
「朝食には土地の人と一緒に茶がゆを作り、握っためはり寿司持参で世界遺産の道を散策、と非日常の時間を味わいに来てください」。



Isao Okada

1983年、十津川村生まれ。地元の五百瀬小学校、上野地中学校、十津川高校卒業後、愛知工業大学で土木を学び、京都の建設会社に就職。現場監督職3年半の2008年夏、村へリターン。現在かんのがわHBP事務局長。

かんのがわHBP

【事務局】 吉野郡十津川村五百瀬49
☎0746-67-0788
<http://www.kannogawa.com>
【行政窓口】十津川村 村づくり推進課
☎0746-62-0004

